

9/12
五、複

静岡文化芸術大学一年生の大山勇希さんが「ラブ&ベースミュージックパレード」(のどぐロ、浜松市中区)で発言した内容を紹介します。

私は半年前高校を卒業したばかりです。平凡な私が、なぜバレーボールに興味があると思ったかというと、今年の5月3日㈯横浜で開催された憲法集会に初めて参加したことがきっかけです。

政府のさまざまな対応になんどない不安を感じていたとき、父から声をかけられ、少し勇気を出して、政治色のある集まりに初めて



ラブ&ピースミュージックパレード

実行委員・静岡文化芸術大学1年
大山 淳希(18)の発言

平和を願つて歩きましよう

若者がどれくらい政治に関心をもっているのか大学内でアンケートをとつてみました。すると「よくわからない」と「どちら」などと一蹴する人が大半で、がく然とします。そんな誰もが意

始めました。
そんな中、衆議院で
安保法案の強行採決が
行われました。悔しくて涙が
涙が出ました。国民の主権のはずなのに、どう意見の人から非難を
うして人々の意見は聞
き入れられないのだろう。「そんな活動しな
たという責任があるの
だと思いました。
政治に関する意見を持つて行動すると、違
うして受けいることがあります。

けました。その帰りに、
「何か行動を起こさな
きや」と決めました。今
までものぐさだった私
が自分から何かを始め
なければと思うほど、
衝撃だったのです。

た。悩んでいたときに思表示できるペレードを作りたい。政治の怖さに気づいていない人にも耳を傾けていただきたい。私はそう思い、実行委員に加わりました。自分が政治をやっても関係ない」と無関心で